

つぎの文章を読んで、後の問題に答えましょう。

五年生になって、わたしは図書係になった。本当は体育係がよかったのに、じゃんけんで負けてしまったのだ。

図書係の仕事の一つに、「おすすめカード」づくりがある。自分が読んでおもしろかった本について、小さなカードに書き、本だなの前にはっておくのだ。

「どうせ、だれも読まないよ。」

わたしは、同じ係の千花にそう言いながら、ざっと二、三行だけ書いて、カードをはった。千花は色えんぴつで絵までかいて、ていねいに仕上げていた。

二週間ほどたった昼休み、図書室に一年生の男の子がやって来た。男の子は、本だなの前でしばらく立ち止まっていたが、やがて一さつの本を手にとった。それは、わたしがカードを書いた本だった。

「これ、おもしろいの。」

男の子が、わたしの顔を見て聞いた。

「……うん。すぐおもしろいよ。」

答えながら、わたしはむねがどきどきしていた。あんなにいいかげんに書いたカードでも、ちゃんと読んでくれた人がいたのだ。そう思うと、急にはずかしくなった。

その日の放課後、わたしはカードをはがして、新しく書き直した。今度は、読んでいちばんどきどきした場面のことを、あの男の子にも分かる言葉で書いた。

書き終えたカードを本だなにはると、となりで千花が、にっこりわらった。

(この問題のための書き下ろし)

問一 わたしが図書係になったのはなぜですか。「しまった」につづくように、本文から十字まで書きぬきましょう。

問二 「どうせ、だれも読まないよ。」と言ったときのわたしの気持ちとして、いちばんあうものを、ア～ウから一つえらびましょう。

ア 係の仕事に気持ちが入らず、いいかげんできている。

イ 千花のカードのほうが上手なので、くやしく思っている。

ウ 本を読むのがきらいなので、カードを書きたくないと思っている。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

問三 「急にはずかしくなった」とありますが、それはなぜですか。四十字まで書きましょう。

問四 この物語で、わたしの気持ちはどのように変わりましたか。いちばんあうものを、ア～ウから一つえらびましょう。

ア 図書係がいやだったのが、体育係になれてうれしくなった。

イ 係の仕事をいいかげんに思っていたが、読む人のことを考えて取り組もうと思うようになった。

ウ 千花と仲が悪かったが、カードづくりをきっかけになかなかりした。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--